

ファンタジー カラーフロー（ステイン仕上げ）

【既設のコンクリート表面の準備】

良い仕上げには既設の表面の下準備が極めて重要です。

古いコンクリートの表面の汚れ（油、グリース、泥等）はコンクリートクリーナーを使って落としますが、希釈は汚れの程度によります。同時に希塩酸で軽く洗浄し、粒子の間をふさいでいるセメントカルシウムを完全に落としてください。カビが生えている場合は、カビ落としをします（次亜塩素酸ソーダ）。*次亜の使用法は本部にお尋ねください。コンクリートの表面が塗料で着色してある場合は、洗浄する前に塗料剥離剤（リムーバ）かコンクリートグラインダーで削り取ります。

新しいコンクリートで14日間養生したものは、軽く希塩酸で洗浄した後、洗い流せば十分です。ひどく傷んでいる部分は下塗り用の材料で補修しておくといでしょう。補修した箇所は砥石で、ざらざらを滑らかにしておきます。

ひび割れは適切な修理方法（Uカット・Vカット・エポ注入）などで直しますが、コンクリートが古いと躯体が動けば必ずしもうまく修理できません。

補修塗りする箇所に再クラックが入らないように、ファイバーなどを混ぜ込んで塗ることも大事です。既設のコンクリートに何らかのかたちで手を加えると、仕上げに影響を与える可能性のあることは承知しておいてください。カラーフローは装飾を目的とした材料であって、補修工事として考えられたものではありません。

【プライマー塗布】

（溶液＝マルチフロープライマー1：水3～4）

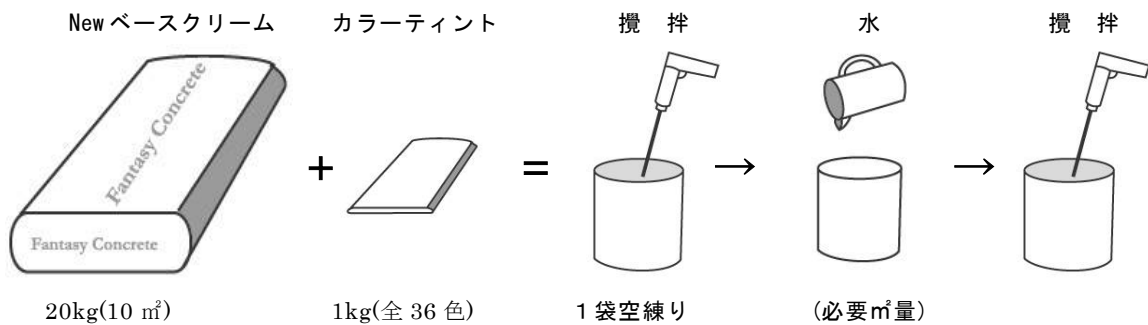
フロープライマー（1リッター容器＝20㎡）：18リッター容器＝360㎡）

まず下地のコンクリートに余分な湿気がないかどうかを確かめ、専用プライマー1に対して水3の割合で混合液を作ります。柔らかいはけか、ローラーを使って溶液を1～2度塗りします。

コンクリートが古く、浸透しやすいものであれば、マルチフロープライマー1に対して水4の割合で作った溶液をたっぷり浸透させる事を繰り返し行わなければならない場合があります。



【ベースコート塗り】 ベース下地塗り



溶液 (冬季) = ベースクリーム + ティント = 21 kg + 水 4 リッター
 (夏季) = ベースクリーム + ティント = 21 kg + 水 4.5 リッター

上記のようにマゼラーで5分間ほど攪拌し、5分間ほど間隔を置いて再度2分間ほど再攪拌します。(この要領は吹付けの場合も基本的には同じです)。

下塗りのプライマーが表面に溜まっていたら布で拭き取り、上記の混合物をプライマーした部分に流し、金ごてでできるだけスムーズに均します。厚さは1~2mm程度がよいでしょう。20kg袋で15 m²前後をカバーします。下塗りが十分に固まったら、コテムラやざらざらした部分を研磨します。

★アシッドステインの色を強調する場合はベースクリームのみか、ホワイトのティントを混入してください。

マルチフロープライマーの割合を多くするとスランプが増し、セルフ・レベリングが容易になり、均しやすくなります。(20kgハーデナーに対し3リッターまで可能です)

下塗りのプライマーが表面に溜まっていたら布で拭き取り、乾燥させます。

攪拌済みのマルチフローカラーハーデナーを金ごてでできるだけスムーズに均します。厚さは1~2mm程度がよいでしょう。20kg袋で10~15 m²前後をカバーします。下塗りが十分に固まったら、罅ムラやざらついた部分を研磨します。

【目地切】

ベース塗りが十分に固まったら、コテムラやざらざらした部分を研磨し、エキスパンション・ジョイント (下地コンクリートの誘発目地) を改めて切り込みます。

又設計者の希望されるフローアーデザイン目地を割り付けし、専用カッターやダイヤモンドカッターで切ります。

その後、掃除機や送風機で粉塵を除去します。

【ステイン仕上】

1、アシッドステイン仕上げの場合

通常アシッドステインを原液～10倍の範囲で希釈しますが、設計者と事前に打合せ、サンプルを提出し、色の倍率をあらかじめ決定しておく事が大事です。

その場合、現場の下地と同じ条件で作成しなければなりません。

散布後数日間は色の変化がある為サンプルより薄いからといって多めにかけ過ぎないように十分に注意してください。

デザインされた細部の面は、ハケで塗りますが、ハケ目が付かないよう注意してください。使用する容器やポンプはポリ製の物をお使いください。

2、水性ステイン仕上げの場合

設計者と事前に打合せ、サンプルを提出し、色の倍率をあらかじめ決定しておく事が大事です。

水性ステインを2倍～30倍に薄めて、仕上げ面に流し込み窓清掃用のスキージで均して色の変化をもたせませす。たっぷり溜まっ箇所が濃いく仕上がり、浸透型の為色落ちの心配はありません。アシッドステインの様に散布後の色の変化はありません。

【シーリング】

1、溶剤系硬質アクリルシーラーの場合（外部標準仕様 溶剤の強い臭い）

ステインの乾燥を待って表面の乾燥残留物を清掃した後、シーリングを行います。

上塗りシーラーを1回塗り、乾燥を待って上塗りシーラーを再度1回塗ります。

その場合のシーラーは別途仕様書の用途に合わせたものを塗って下さい。

シーラーはできるだけ薄く塗ってください。温暖あるいは熱い場所ではシーラーを厚く塗りすぎると、コンクリートの表面や目地に泡を生じる原因となります。

湿気がある場合、冷たいコンクリートをシールしてはいけません。気温の高い日は、一日のうちで最も涼しい時にシーリングしてください。シーラーは柔らかいはけ・専用ブラシかローラー、またはエアレススプレーガンで塗布してください。

*** シーラーは用途に合わせて各種用意しています。**

硬質アクリル溶剤シーラー （外部標準仕様 溶剤の強い臭い）

硬質アクリル水性シーラー （室内標準仕様 無臭）

硬質ウレタンシーラー （室内の光沢床 溶剤の強い臭い） 高価

水性エポキシシーラー （室内の光沢床 無臭） 高価

溶剤エポキシシーラー （室内の光沢床 溶剤の強い臭い） 高価



【使用上の注意】

本製品の使用前に、使用者は関連するファンタジーステインの施工要領書やテクニカル・データと材料安全データシートを必ず読んでください。

健康及び安全面で有害となる恐れがあるものは、使用者は必ず適切な安全装備を着用し、予防措置をとってください。

10℃以下では乾燥・養生時間が大幅に遅れるので、工事は避けた方がよいでしょう。また表面温度が 40℃を超える場合も養生に影響を及ぼすのでお勧めしません。したがって、気温が非常に高い日には、作業部分に覆いをかけるとよいでしょう。

本製品の貯蔵および総輸入元、販売元の関知するところではなく、したがって、その点に関する一切の責任は負いかねます。本情報は事前の通知なく変更する場合がありますので、使用者は常に最新情報を入手してください。また、使用者は本製品が使用目的に合うものであるか確認してください。異なった目的に使用する場合は、使用者の責任において用いてください。

【マルチフロー使用に際してメーカーがお勧めする製品およびツール】

マルチフローハーディナー

フロースライマー

バケツ（練り混ぜ用）

計量容器

ミキサー（攪拌機）

目地テープ 6mm, 9mm, 12mm（市販のガムテープなど）

はさみ

ディクグラインダー（スキルタッチ・サンダーペーパー）

コンクリート用ダイヤモンドカッター

しごき鏝

ハケ、スポンジ、ハンドスプレー

塗装用ローラー（プラーマー塗布用）

養生マスキングテープ

高圧水洗機

希塩酸（市販のサンポールなどを希釈下さい。）

工業用掃除機（有れば便利です）

ゴミ袋（土のう袋など）



IT Exterior Products Pty Ltd

Japan Branch : 1-7-9 Tatara, Higasiku, Fukuoka

伊藤建材株式会社